

武庫川流域委員会 委員長松本誠様

武庫川を愛する尼崎市民の会
担当 丸尾雅美

まずダムを造らない決断を。その上で総合治水と超過洪水対策に全精力を。

第19回武庫川流域委員会。

1、流域委員会のこれまでの議論に注目してきた。総合治水の考えを基本高水の設定に取り込むのか、基本高水を求めたあとでその水の治め方を総合的に考えるのか。そもそも前者の仕組みが存在するのか。

1、第19回委員会で出された中川芳江さんの意見は、これまでの基本高水の議論を率直に評価し、今後の議論の進め方を提起している。一般市民としてその意見に多くの共感を持つことができ、私共の考えに大きな齟齬はないことを確認した。

1、河川当局から提示された案についての議論では、基本高水設定のための「モデルは欠陥だらけ」、「データは乏しい」、という現状を見せつけられている。

1、この状況から得るべき教訓は、これからの流出解析の方法およびデータの蓄積について、流量観測に基づく分散型モデルの選択が可能になる条件を整備することだ。このことは、今後の総合治水の計画策定のために当局に対する流域委員会の提言としてよいのでは。

1、ただし、過去のデータから未来を完全に予測することは、特に温暖化が迫る今日の状況下でますます困難となる。超過洪水対策こそが重視されなければならない。

1、中川芳江さんの意見書で特に重要と考える点は、「基本高水は生活者の感覚とは無関係」であり、「治水度の低いところから有効で具体的な治水対策を」という主張だ。いつ来るかもしれない災害への対応を急ぐべきだ。

1、これまでの河川行政を振り返ると、基本高水をテコにして無駄と考えられるダムまでをも造ってきた。これは歴史的事実だ。工学的に河川を改変し自然環境を破壊してきた。

それへの反省が新河川法を誕生させ、環境を重視し住民とともに考える政策に変えることにした。長い目で見れば、その手法の方が災害を防ぐ効果が高いと気づいたのだ。

1、自然環境の破壊はいずれ人間を破壊するという観点から、まず環境に決定的なダメージをもたらすダム事業を行わないという決断が必要だ。その上で可能な限りの総合治水対策と、超過洪水対策を精力的に進めるべきだ。 2005年6月28日